あいち農産物生産流通レポート

平成１８年９月号

◎情報サロン
・食生活をデザインする～食育のすすめ
－愛知県食育推進ボランティア講習会を開催－
（食育推進課） ------ 1

◎地域トピックス
・農業総合試験場で開発した水稲の不耕起直播栽培が拡大中
（農業総合試験場） ------ 2

◎東日本情報
・平成１７年度京浜市場における愛知県秋冬野菜の販売結果について
（東京事務所） ------ 3

◎西日本情報
・第２８回果実品質改善共進会（ぶどうの部）が開催されました
（食育推進課） ------ 5

◎フラワーページ
・取扱い業者サイドから見た「白粋」の評価
（東京事務所） ------ 7

◎青　果
・愛知産青果物の動向（名古屋・東京市場） ------ 8
・名古屋・東京市場における青果物の９月の見通し ------ 9

◎花　き
・切花・鉢花の９月の見通し（県内市場） ---------- ２１

◎輸出入
・主要農産物の輸出入実績（２００６年６月） ---------- ２５

◎関連指数 ---------- ２６

本書の内容についての問い合わせ先
愛知県東京事務所総務課物産情報グループ　(03)-5492-5400
愛知県農林水産部食育推進課　(052)-954-6417

情報サロン

食育推進課

食生活をデザインする～食育のすすめ
― 愛知県食育推進ボランティア講習会を開催 ―

愛知県では、県民一人一人が「食育」に興味・関心をもち行動していただくために、食生活改善や健康づくりなどに携わる幅広い分野の方々を”愛知県食育推進ボランティア”として登録し、「食事バランスガイド※」などを活用した食育の普及活動に取り組んでいただいています。

このボランティアの方々に食育に関する知識を習得していただくため、７月１２日(水)に名古屋市熱田区の熱田神宮文化殿においてボランティア講習会を県主催で開催しました。当日は、食育推進ボランティア２００名が受講され、愛知教育大学西村敬子教授による「食生活をデザインする～食育のすすめ」の講演など、熱心に耳を傾けていただきました。以下、西村敬子先生の講演要旨を紹介します。

「食生活をデザインする～食育のすすめ」

（講師　愛知教育大学西村敬子教授）

○　食をめぐり、今問題となっていること

現在、食に関する基礎的な知識を知らない人が多いようです。学生との交流でもそのことを感じますが、これには、食の大切さを子どもに伝えてこなかった大人の責任が大きいと思います。

また、食料自給率の低下とともに、消費者に食への不安が広がっています。米国産牛肉輸入再開を例に取るまでもなく、消費者は、便利な面と危険な面を両方知った上で、自ら食品を選択して生きていく能力が必要となってきます。

○　食育の必要性

国で、平成１７年に食育基本法が成立し食育基本計画が策定されました。その中で朝食欠食率を小学生で０％にする目標を掲げています。「朝ごはんを食べること」はどの世代でも一番大事なことです。脳は体重の２％の重さでありながら、エネルギー消費は２０％にもおよび、寝ている間にも活動している臓器です。脳にエネルギーを不足なく運び、一日の生活リズムをつくる上でも朝ご飯は重要です。

○　食をデザインする

健康自体は人生の目標ではありませんが、人生の目標を達成するために大切なことです。「健康」を失うと人生の全てを失ってしまいます。それを実現するには勉強と決心が必要です。

自分で考えて、自分にあった食べ方をすること、「食をデザインする」能力を身につけることが大切です。そのためにも、視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚の五感で食べる習慣を身につけましょう。

※　食事バランスガイドとは

「食事バランスガイド」とは、健康づくりの観点から、１日に「何を」「どれだけ」食べたらよいかという適量を料理区分（主食、副菜、主菜、牛乳・乳製品、果物）別に、おおよその量をイラストで示したものです。

この「食事バランスガイド」の形状は、日本で古くから親しまれている「コマ」をイメージして描かれ、食事のバランスが悪くなると倒れてしまうということを表しています。

地域トピックス

愛知県農業総合試験場　作物研究部

農業総合試験場で開発した水稲の不耕起直播栽培が拡大中

＜研究の経過＞

完全不耕起栽培は水稲の究極の省力栽培として大きな期待を集めていました。しかし、完全不耕起のほ場は、田面に前作の凹凸が残り、また雑草が多いなどの問題がありました。

そこで、水需要の少ない冬季に入水・代かきを行う「冬季代かき」と「不耕起Ｖ溝直播栽培」を結合させました。この「冬季代かき」を行うことにより漏水を防ぎ、田面の凹凸を整えて作業精度を高めたり、後の雑草管理も容易になります（図1）。

図１　　不耕起Ｖ溝直播機

＜不耕起Ｖ溝直播栽培の特徴＞

不耕起Ｖ溝直播栽培の作業体系は以下のとおりです。

- 12～2月に代かきし、前作の残渣を鋤き込むと同時に田面を均平にする。
- 中干し用溝切機などで排水溝を設けて排水を促し、ほ場を乾燥・固結させる。
- ほ場が乾いて、トラクタの走行に適当な硬さになったとき、播種（と同時に同条施肥）する。
- 播種後出芽直前までに接触型除草剤を散布、また稲の出芽後、必要に応じて選択性接触型除草剤を散布する。稲が本葉2葉期を過ぎたら入水し、初中期一発型除草剤を散布する。
- 収穫直前まで湛水状態を維持し、移植栽培と同様コンバインで収穫する。

この栽培法には次のような利点があります。

- 播種作業は1時間あたり0.5～0.8haで、1日当たり4～7haに播種できる。
- 栽培に要する労働時間は1ha　あたり80時間（移植栽培平均280時間、大規模移植栽培110時間）と省力的である。
- 生産費は1ha　あたり72万円（移植栽培平均131万円、大規模移植栽培78万円）と低コストである。
- 収量・品質は移植と同等以上である。

この他に、この栽培では、出穂がやや遅いため高温期の品質低下の回避が期待できます。また、深水・無落水管理ができるので、ほ場の高温抑制、水資源の節約や生物多様性の確保など環境保全の可能性も注目されています。

＜普及状況＞

この特徴が規模拡大を志向する生産者に受け入れられ、平成18年の作付けでは、愛知の1,096haはじめ東海、北陸、近畿、東北など十数府県でおよそ1,300haに広がっています。

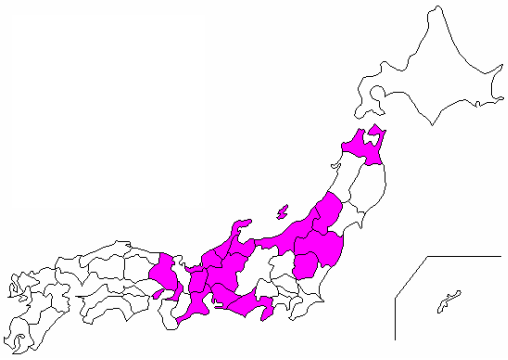

図２ 普及状況

東日本情報

東京事務所物産情報グループ

平成１７年度京浜市場における愛知県秋冬野菜の販売結果について

７月４日に開催された京浜市場愛知県野菜連絡会主催による秋冬野菜販売反省会における販売概況のうち、先月号のキャベツ、トマト、ミニトマト以外の品目について報告します。

品目別販売概要（京浜市場愛知県野菜連絡会の品目別の研究会がまとめたもの）

１　ふき

(1) 販売経過

抑制ふきは、平年並みの入荷量でしたが、需要が小さく、販売苦戦が続きました。

２月からの促成ふきは、低温等の影響により荷動きが悪かったため２月下旬からＰＲ活動や試食宣伝を行ったこと等により、好転しました。

３月から４月は、群馬産の入荷も少なく、他方、愛知産は入荷量も安定し、品質も高いことから固定客を確保できたため、価格も安定し、最後まで販売できました。

(2) 競合産地の動向

例年、３月中旬から愛知産は群馬産と競合しますが、群馬産は低温による生育の遅れのため、この競合期間は短くなりました。

(3) 消費動向

抑制ふきの荷動きは、例年同様よくなく、年末のみでした。

生育期間中の低温により１月～２月上旬まで入荷量が少なかったため、春商材としてふきを量販店に提示できませんでした。

(4) 愛知県への提言

- ふきのＰＲ活動
- 促成ふきの作付け拡大

２　さやえんどう

(1) 販売経過

１２月は、主力の鹿児島産の入荷量は異常低温と積雪等の天候により激減したため、愛知産は２kg10,000円と、年末の需要期には過去に例のない高値となりました。

年明け以降は、年末の高値の反動により、価格は下がったものの、春商材としての引き合いは強く、高値で堅調に推移しました。

春さやえんどうの主力の徳島産は３月から４月の低温による生育の遅れにより、連休需要期に向け価格は高騰しました。

(2) 競合産地の動向

秋冬産地では作付面積、生産量の増えている産地はありません。主力の鹿児島県は、労力の軽減できるスナップエンドウやいんげんに作付転換しており、年々微減の傾向です。

(3) 消費動向

安心・安全性に優れている国内産の需要が強く、濃いグリーンで鮮度の高いものが好まれています。

(4) 愛知県への提言

- 作付面積、生産量の拡大
- 市場の集約によるロットの拡大
- 出荷量の平準化

３ブロッコリー

(1) 販売経過

秋冬作の産地は各産地とも年内販売向けの作付けの増加、１０月の安定した気候により豊作が予想されましたが、１１月中旬以降、低温と干ばつにより大幅に数量は減少し、一転して高値安定となりました。年明けの１月、２月も、年内と同様の天候により、不作となった前年並みの入荷数量となり、高値販売となりました。２月下旬以降のシーズ

ン終盤は、天候にも恵まれ競合産地からの出荷が集中したことや、１１月～１月の高値の反発があったことから、１玉７０～８０円と販売は苦しい状況でした。

(2) 競合産地の動向

埼玉県：作付面積は前年並。横詰め出荷が拡大の傾向。
群馬県：作付面積は増加傾向。
香川県：作付面積は増加。京浜出荷は大幅に増加。
福岡県：作付面積は増加傾向。
栃木県：作付面積は増加傾向。
アメリカ：レタスの作付け増加によりブロッコリー作付けは減少。
中国：作付面積は増加傾向。

(3) 消費動向

年々、テレビ等で取り上げられる機会が増え、年間を通して量販店は売場を広げており、需要は安定して伸びています。今後、他の洋菜類と比べやや劣っている業務扱い量を伸ばせば、さらに需要は拡大すると思われます。

(4) 愛知県への提言

- シーズン通して作付面積の拡大
- 消費宣伝会の実施
- 予約相対的な取引の拡大
- 週末集中型の出荷体制

４おおば

(1) 販売経過

昨年５月にテレビ番組で取り上げられたことから、販売環境は良好でした。愛知産の入荷量は低温のため１２月中旬頃から減少し、愛知産の相場を順調に展開できました。量販店からの発注も例年どおりにあり、１パック５００～６００円で推移しました。一方、加工業務筋は、年々微減傾向にあり発注量が増えてこなかったため、販売苦戦が予想された。しかし、１２月２９日以降に追加発注があり、年内はスムーズに販売できました。年明けも天候が悪く、また、高騰する重油の節減等により、温室の温度管理が難しく出荷量も安定しなかったが、単価は比較的安定して推移しました。

(2) 競合産地の動向

茨城産、大分産、香川産及び高知産についても、重油価格の高騰や生育状況は愛知産と同様でした。特に、大分産は関西市場を主力としており、大田市場には日量１０～２０ケースの入荷と昨年より減少しました。この理由としては関西市場の価格動向によるものです。

高知産は、作付面積は横ばいで、天候の影響により産地全体の出荷量は例年より減少したが、大田市場への入荷量を増加させました。愛知産の入荷量不足を補う、２番手産地の茨城、高知がシェアをアップさせています。

(3) 消費動向

量販店の取扱量は年々増加する傾向にあり、５月のテレビ放送を契機に引き合いが強くなり、一般消費者が一度に購入する量も増えています。出荷形態は袋詰めとパック詰めがあります。量販店の販売形態を考えると、仕入れ値に応じてパックを半分して販売できるパック詰めの方がよいと思われます。

(4) 愛知県への提言

食味や香りの点から、基本的に、おおばといえば愛知産が定着しています。しかし、全体の入荷量が減少する中、茨城産にシフトしている。この理由として、加工業務筋は年間契約を主流しており、愛知産の価格は高すぎる。一般的な相場は２５０～２３０円で、愛知産は（輸入品との関係から）全量が量販店向けと考えた方がよい。今後、全体の生産量を増加させ、レギュラー販売をもう一度見直す必要があります。入荷数量に対する契約取引の比率が高すぎる。

西日本情報

食育推進課

第２８回果実品質改善共進会（ぶどうの部）が開催されました

平成１８年８月２２日、春日井市のグリーンパレス春日井にて第２８回果実品質改善共進会（主催：愛知県、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県果樹振興会）を取材しましたのでその状況を紹介します。今回はぶどうの部で、品評会のほか、一般の消費者を対象にした即売会もあり、暑い中、多くの人が集まりました。

■ぶどう品評会

品評会は、生産者の栽培技術向上と消費拡大を目的に、例年、「旬」の時期に開催されています。本年は生育初期の多雨や日照不足など、果実にとって必ずしも恵まれた環境ではありませんでしたが、県内各地から選りすぐりの優れた品質のぶどうが６７点出品されました。大半は巨峰でしたが、一部ロザリオ・ビアンコ等も出品されていました。審査は５房１組で、出品された重量の測定に続いて、外観、糖度、品質という３区分の審査が順次行われました。外観は、５房の揃い具合い、病害虫・傷の有無、形、色沢（紫黒色以上）、ブルーム(ぶどうの粒に付いている白い粉)・薬斑の有無を審査員が一つずつ確認していきました。愛知県は夜温が高いため、紫黒色を出す栽培は難しいとのことですが、出品されたぶどうは色の良いものが多く、審査員もじっくりと審査していました。また、多くのぶどうで糖度が１８度から２０度あり、甘さも十分でした。出品されたぶどう一つずつを丁寧に審査し、農林水産大臣賞をはじめとする特選１５点、入選５点が決定しました。

審査の様子

消費者による審査の様子

さらに今回から、一般消費者の５人も審査に加わり、「実際に購入したいかどうか」を基準に審査を行いました。消費者は初めての審査は大変な様子でしたが、消費者の視点から慎重に審査し、消費者特別賞などを決めました。

特選に決まったぶどう

■一般公開と即売会

賞が決定した後は、出品されたぶどうの一般公開が行われ、来場者は、形の揃ったぶどうに魅入っていました。その他にも、農業総合試験場で栽培した７品種も紹介され、こちらは試食ができるということで、来場者は様々なぶどうを食べ比べていました。

試験場で栽培された様々なぶどう

＜試験場から紹介された７品種＞

・シャインマスカット、安芸クイーン、サニールージュ、多摩ゆたか、巨峰、ピオーネ、ゴルビー

一般公開の後に行われた即売会では、品評会に出品されたぶどうが安く販売されるとあって、開始前から行列ができ、販売が始まるとあっという間に売り切れとなりました。ぶどうを手にした来場者は、満足した様子で会場を後にしました。

このような品評会や即売会を通して、県内のぶどう生産がさらに活性化するとともに、生産者が心を込めて作ったぶどうのより一層の消費が期待されます。

■愛知県のぶどう生産について

愛知県の平成１７年産ぶどうの収穫量及び出荷量は以下のとおりです。

結果樹面積	10a 当たり収量	収穫量	出荷量
５００ha	１,１３０kg	５,６７０t	５,２４０t

（出典:農林水産省統計データ「平成１７年産日本なし、ぶどうの収穫量及び出荷量」）

品種別の結果樹面積割合は、巨峰７５％、デラウェア１８％と、この２品種で９０％以上を占めています。

市町村別では、東浦町、大府市、豊橋市、三好町、東海市、豊田市、新城市、春日井市が県内でも生産が盛んです。１７年産は着房数が多く、台風等の被害も少なかったことから、１６年産に比べ、収穫量が７１０t 増えました。

また、１７年の名古屋市中央卸売市場における巨峰の県別取扱数量と金額は以下のとおりです。

名古屋市中央卸売市場における巨峰の県別取扱数量及び金額（１７年）

順位	県　名	数量（t）	金額（千円）
1	長　　野	1,488	980,584
2	山　　梨	381	228,656
3	愛　　知	316	230,600

（出典：名古屋市中央卸売市場年報２００５）

フラワーページ

東京事務所物産情報グループ

取扱い業者サイドから見た「白粋」の評価

東京都中央卸売市場における平成 17 年愛知産の白色系輪ギク（切り花）は、7,046 万本（金額：49 億円）と全国１位の入荷量で、占有率は 70 %（同：72 %）を占める品目です（平成 17 年東京都中央卸売市場年報より）。

現在は「神馬」、「精興の誠」などが中心に入荷しています。市場からは品質・物量ともに安定しており、全国をリードする産地として絶対的な信頼・信用を得ています。しかし、「神馬」はパテントがないため、国内市場において値崩れを起こしており、愛知県として違いを出さなければいけないと考えられています。

このような中、愛知県農業総合試験場は品質が高く優れた性質を持つ「白粋」を育成しました。平成 17 年から東京都中央卸売市場には、試験的に出荷されています。

この度、愛知みなみ農協産「白粋」に対する意見を卸から小売･葬祭業者までの取扱い業者から得ることができたので紹介します。

＜評価＞

・他品種と比べて水保ちが良く、葉色が良好である。
・「神馬」と比べ花の揃いが良い。
・緑芯であることから、祭壇において洋花との相性が良い。
・関東地方では祭壇上に参列者から花芯が見えるように飾られるため、一部に違和感を感じる業者もいる。

＜求められるもの＞

・業務向けにはロット、出荷期間（１０月中～５月）を通して安定した出荷をして欲しい。
・どのように売り込みをかけていくのか、業務への根回しが必要である。
（市場としてもアピールしていきたい）
・多数の人に知ってもらい、いかに少量ずつでも買ってもらうかが必要であり、サンプル出荷をして欲しい。
・相対では価格に変化がないので、もっと競りに出す。
（小さな花屋にもいかに知ってもらい、もっと買ってもらうかが重要である）
・競り前の PR など販売促進を積極的に行うこと。

＜まとめ＞

「白粋」は緑芯という特徴を持っており、、洋花との相性が良いという評価を得ています。この特徴から、首都圏では洋花祭壇による葬儀が増えている、という流れに乗りやすいとも考えられます。

また、「白粋」が定着するには、産地、市場などの関係者が共同して販売促進を積極的に行うことが必要であると思われます。

実際の葬儀場祭壇での「白粋」

愛　知　産　青　果　物　の　動　向

○　名古屋市中央卸売市場（品目：とうがん）

	入荷量（t）	うち愛知産	卸売価格（円/kg）	うち愛知産	前年の主な他産地（上位３産地）
１７年実績	８８	７４（８４%）	６０	６３	岐　阜　（１５%） 岡　山　（　１%）
１８年見通し	７０	－	１３０	－	

入荷量及び卸売価格の概要と見通し	卸売市場から産地への要望・提言等
とうがんには、琉球（青）とうがんと、昔ながらの白いとうがんがあるが、市場で流通するのはほとんどが琉球とうがんである。７月の長雨により花落ちが見られ、梅雨明けは根腐れもあり、数量は少ない。 ９月の出荷量は前年を大幅に下回り、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。	とうがんは中高年世代を中心に消費されているが、食べ方を知らない若い世代向けに産地は調理法や食べ方を提案する必要がある。 愛知のとうがんは品質が良く定評があるので、産地は安定出荷を行って欲しい。

○　東京都中央卸売市場（品目：いちじく）

	入荷量（t）	うち愛知産	卸売価格（円/kg）	うち愛知産	前年の主な他産地（上位３産地）
１７年実績	６６９	４１２（６２%）	５６６	５９３	和歌山　（　25%） 静　岡　（　6%） 埼　玉　（　2%）
１８年見通し	６７０	－	５８０	－	

入荷量及び卸売価格の概要と見通し	卸売市場から産地への要望・提言等
９月は、本県産で、全出荷量の６割を占め、他県産は和歌山を筆頭に、静岡や関東近在からの入荷となる。 本県産は、西三河、知多地区中心に入荷する。栽培面積は減少している。生育は天候不順の影響から７日ほど遅れているが、今月は順調に入荷すると見込まれる。和歌山産については、着果量が少なく入荷量は減少する見込み。 全体の入荷量は前年並と見込まれ、価格については前年並と見込まれる。	健康食品としていちじくが消費者に認知されており、年々引き合いが強くなりつつある。今後も好調な販売が期待できることから、出荷量を増やして欲しい。また、天候などの影響を受けやすい作物なので、有利販売のためには、できるだけ早く出荷量などの情報をいただきたい。 品質面では、通常問題ないが、台風や降雨後の出荷に際しては、より一層の注意をお願いします。

関　連　指　数

項目 / 年月		消費者物価指数（全国 平成12年＝100　愛知県 平成12年＝100）				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
全国	17年平均	97.8	103.3	99.6	106.0	95.3
	18年 2月	97.8	111.2	99.2	106.6	96.0
	3月	98.0	104.4	96.2	96.3	97.2
	4月	98.3	109.0	91.3	106.8	99.0
	5月	98.8	110.6	109.8	107.0	98.4
	6月	98.7	110.0	111.1	106.6	96.9
愛知県	17年平均	97.5	103.9	93.9	103.7	96.3
	18年 2月	97.2	106.3	94.0	103.8	99.2
	3月	97.5	99.8	94.3	103.1	102.2
	4月	98.0	105.1	90.1	102.8	105.2
	5月	98.4	111.4	104.1	104.0	104.0
	6月	98.4	112.1	103.9	103.5	99.8

資料　全　国‥総務省統計局「消費者物価指数月報」
　　愛知県‥愛知県企画振興部「名古屋市消費者物価指数」

項目 / 年月	農業物価指数　（平成12年＝100）				
	農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
17年平均	99.7	91.9	104.7	90.7	109.3
18年 2月	106.3	91.7	126.3	103.2	107.4
3月	104.0	91.9	114.9	94.6	106.4
4月	106.2	92.0	122.0	104.1	107.2
5月	100.7	92.4	109.8	92.6	108.0
6月	101.0	92.8	113.7	106.5	109.6

資料　農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

名古屋市小売価格（円）

品目 / 単位 / 年月	うるち米（単一品種、「コシヒカリ」以外）	キャベツ	はくさい	ねぎ	レタス	ばれいしょ	だいこん	にんじん	たまねぎ	きゅうり	トマト	生しいたけ	りんご（ふじ）
単位	5kg	1kg										100g	1kg
17年平均	2,293	170	165	586	397	304	151	340	217	522	636	178	521
18年 2月	2,247	194	146	621	523	261	167	296	220	638	568	166	443
3月	2,247	144	152	531	406	282	178	308	227	600	631	175	502
4月	2,247	186	197	538	359	290	195	379	220	486	683	187	511
5月	2,255	218	230	616	410	296	165	461	235	425	625	195	539
6月	2,264	196	246	619	337	276	163	387	202	466	562	174	573

品目 / 単位 / 年月	みかん	グレフルプツ	オレンジ	いちご	バナナ	キウフイルツ	緑茶（せん茶）	カーネーション	きく	バラ	豚肉（ロース）	牛肉（ロース）	まぐろ
単位	1kg						100g	1本			1kg		
17年平均	548	291	362	156	240	723	618	155	171	306	234	792	480
18年 2月	410	393	390	168	242	603	617	156	176	326	229	760	498
3月	423	387	383	150	232	646	617	156	172	324	235	787	483
4月	―	350	378	123	250	643	617	160	173	321	231	741	493
5月	―	350	361	129	243	634	617	186	158	322	240	767	489
6月	―	379	404	―	244	767	617	171	168	312	226	781	491

資料　総務省統計局「小売物価統計調査報告」

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか	：	±２％台以内
や　や	：	±３～５％台
かなり	：	±６～15％台
大　幅	：	±１６％以上

あいち農産物生産流通レポート　№399
平成18年9月発行
農林水産部食育推進課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目１番２号
電話　（０５２）９５４－６４１７